



▲ 列を組んで踏み進め「イチニ、イチニ」

伝統農法を学ぶ

～麦踏み・牧小学校～

2月16日(月)牧小学校の全児童(82人)が学校近くの麦畑で、麦踏み体験学習を行いました。

この学習は、同校の総合学習の一環として地元の農事組合法人「クリーンファーム・まき」の協力で毎年行われています。

「麦踏み」は、麦を踏むことで根の張りをよくして寒さや乾燥に耐える力をつけるために行われる伝統農法で、当日は約80アールの麦畑を6年生を中心とした仲良し班で「イチニ、イチニ」と声をかけながら、15センチメートル程に成長した麦を踏み固めました。

麦踏み体験を終えた児童の1人は「下級生に教えながら、みんなで協力してできました。」と語っていました。

大垣-安八間の交通利便化

～一般県道大垣江南線・大安大橋^{だいあんおおはし}開通～

2月18日(水)大垣市大村地区と安八町西結を繋ぐ揖斐川に架かる約394mの『大安大橋』の開通式が行われ、一部開通済みの区間を含む約2.4kmが供用開始されました。

式典で堀町長は「待ちわびた大安大橋の開通は、この上ない喜びです。大きな川に挟まれた安八町にとり、大きな効果があると期待しています。」と話されました。セレモニーでは保育園児も参加してのテープカット・くす玉開披のほか、東安中学校吹奏楽部による演奏が行われ、その後、南今ヶ淵在住の吉田幸雄さんの3世代夫婦を先頭に参加者らは真新しい橋を歩いて渡りました。

この大安大橋の開通により、朝夕の交通渋滞緩和や緊急輸送の迅速化が期待されます。



▲ 待望の大安大橋が開通

災害時等の連携・協力体制を強化

～西濃地域における越境避難に関する協定～

2月10日(火)大垣市、海津市、養老町、神戸町、輪之内町、安八町、大野町の首長が西濃総合庁舎(大垣市江崎町)に一堂に会し、災害時等における住民避難に関する連携・協力体制の強化を図るための『西濃地域における越境避難に関する協定』が締結されました。

住民が避難所に行くために、揖斐川に架かる橋を渡らなければならない地域において、この協定により川を渡らずに他市町の避難所へ避難することが可能になります。

大垣市平町(川東)地域は、揖斐川の東岸にあり、大規模地震等で大垣大橋が通行不能になった場合、同地域にお住いの方は、安八町立名森小学校に避難されます。



▲ 協定を締結した西濃振興局長と西濃地域7市町の首長ら